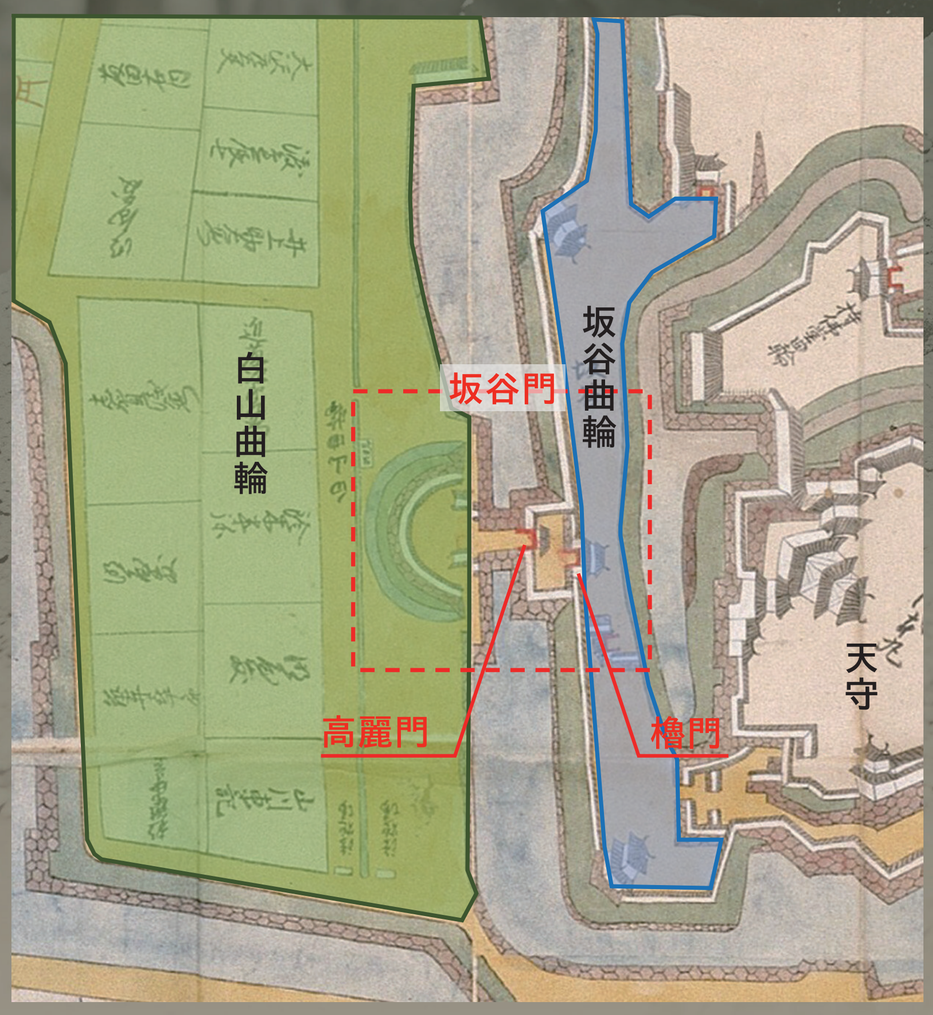
歴史と地形から、愛知を知る。ブラアイチ

SPOT スポット 3

岡崎城坂谷門（さかたにもん） ～威容を示す搦手門（からめてもん）～



岡崎城図（水野家時代）岡崎市美術博物館蔵

坂谷門とは

坂谷門は、岡崎城の本丸脇にある細長い曲輪（くるわ）※1「坂谷曲輪（くるわ）」から、西側の白山曲輪（はくさんくるわ）へ突き出した外枡形（そとますがた）※2 です。

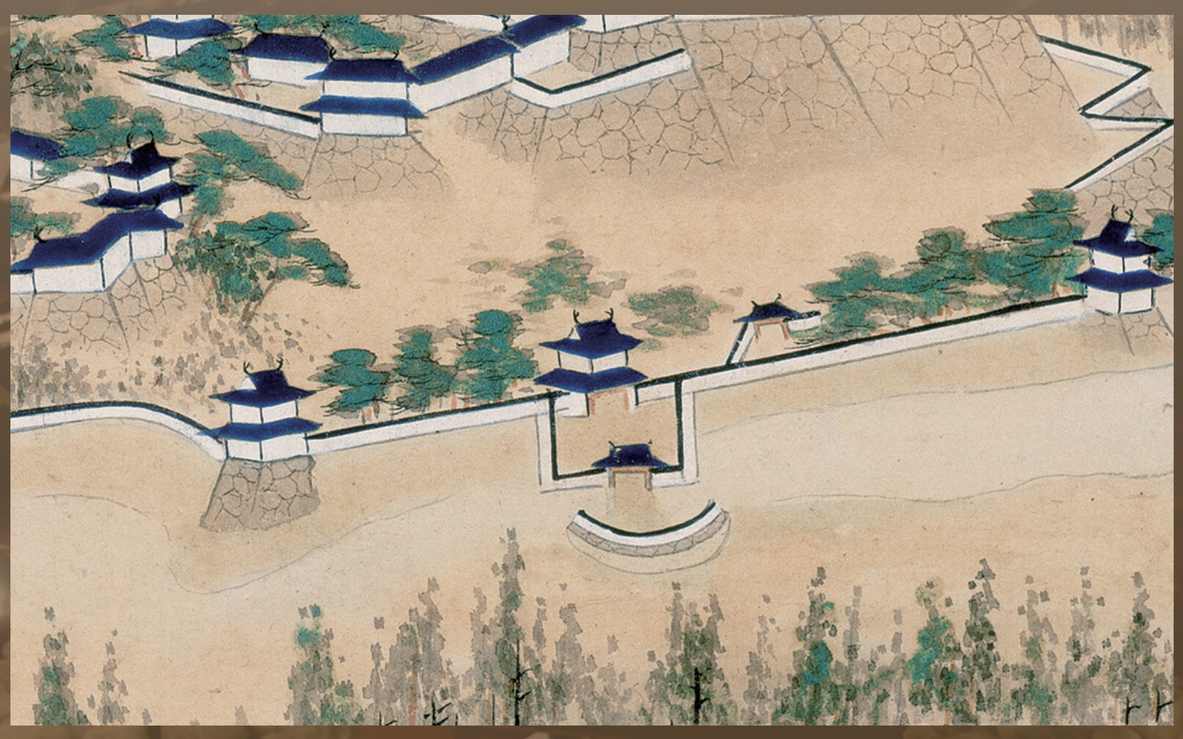
江戸時代の初め、岡崎城の城主※3 となった本多家により坂谷門は築かれ、江戸時代の中期、後期と時代を経る中で少しずつ姿を変えていきました。

坂谷門は、東西に格式高いとされる「高麗門（こうらいもん）」※4 と「櫓門（やぐらもん）」※5 の二重の門を置き、それらを塀や石垣でつなげています。これを枡形（ますがた）と言います。門の西側には狭い土橋（どばし）が白山曲輪（はくさんくるわ）へかかり、その先には丸馬出（まるうまだし）※6 も備えられています。

東海道を西から来る人達には、天守と二重の門が重なって見え、重層的で迫力満点に見えていたことでしょう。

※1 堀や塀によって区切られた、城郭を構成する区画 ／ ※2 門を二重して、門と門の間に設けた方形の空間。曲輪の外に突き出す外枡形、曲輪内に設ける内枡形、半分だけ曲輪外に突き出す半枡形がある ／ ※3 本多家（1601 ～ 1645）、水野家（1645 ～ 1762）、松平家（1762 ～ 1769）本多家（1769 ～ 1868）の四家が岡崎城城主を務めた ／ ※4 前面に 2 本、背面に 2 本の 4 本の柱の上に横木と屋根が乗った四脚門 ／ ※5 石垣の土台の真ん中に門扉がつき、石垣の上には櫓と呼ばれる部屋を乗せた門 ／ ※6 虎口から対岸へ突き出した空間で、周囲を堀や土塁、石垣で囲むことで敵兵が壁面にとりつくことを防ぐ攻撃型防御拠点。丸馬出と角馬出の 2 種がある。

比べる今昔 坂谷門

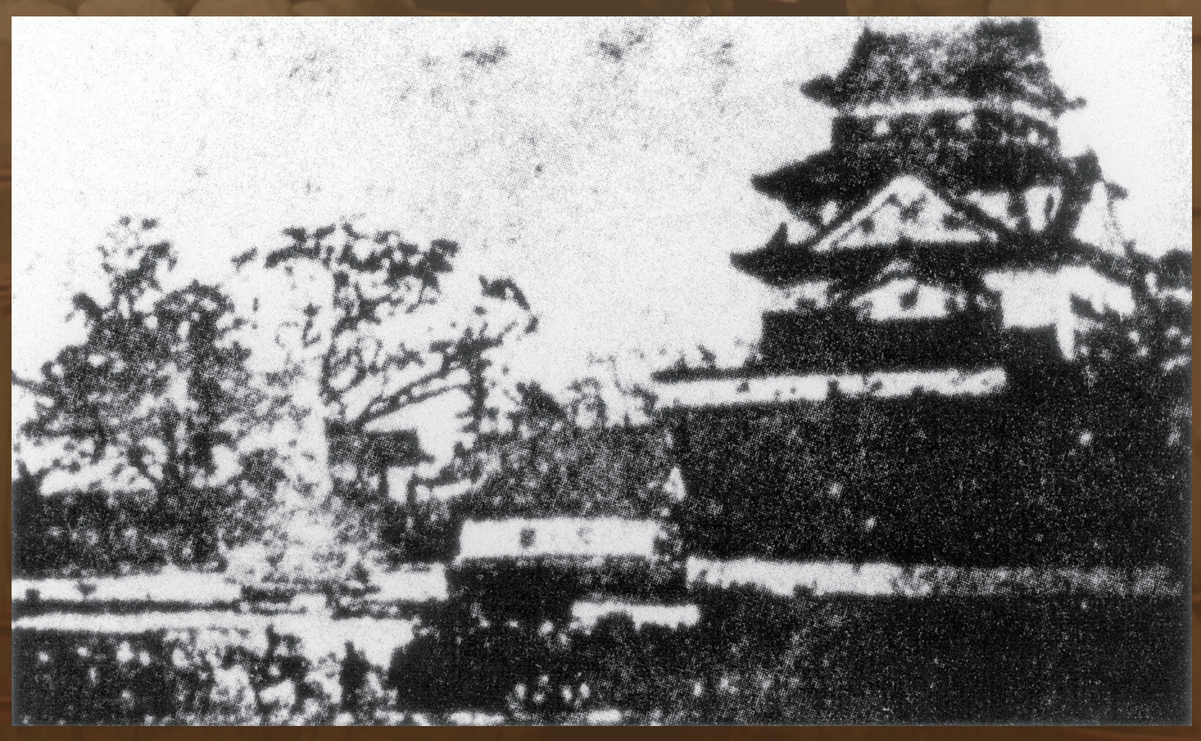


龍城図（後本多家時代）岡崎市美術博物館蔵

門が造られ始めた 1624 年は、大阪の陣※1 や一国一城令※2 から約 10 年が経った頃です。この泰平の世における城郭の役割が、「戦時の砦」から「政治経済の拠点」や「城主の権威付け」に変わっていくと共に、坂谷門も姿を変えていきました。

1873 年の「廃城令（はいじょうれい）※3」により坂谷門の建物部は失われました。しかし、石垣が残されたことで、伊賀川の対岸からは今でも在りし日の坂谷門の姿を想像することができます。

※1　1614 年、1615 年に江戸幕府と豊臣家の間で起こった 2 つの合戦。
※2　1615 年に江戸幕府が大名へ命じた、居城以外の城を取り壊す法令。
※3　明治政府が発した「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方」の略語。



明治時代初期の坂谷門と天守　岡崎市美術博物館蔵



現在の天守と江戸時代後期の坂谷門のイメージ 岡崎市教育委員会蔵

歴史と地形から、愛知を知る。ブラアイチ

ココに注目！

ほぼ～発掘調査で解明された門の姿～

2021年と2024年、岡崎市教育委員会により坂谷門の発掘調査が行われました。この発掘調査で初めて、絵図に描かれた坂谷門の実態が明らかになってきました。

外門側は「高麗門」という４本柱の門の、柱を支えるための礎石３石が発見されました（１柱に１石のため本来４石あるはずですが、そのうち１石は見つからず）。内門側は石垣の上に櫓を乗せた「櫓門」の土台石垣や、城の内外へ移動するための門扉の位置も分かりました。さらには、潜り戸※1 や排水のための石組み溝のような、絵図には表れない発見もありました。

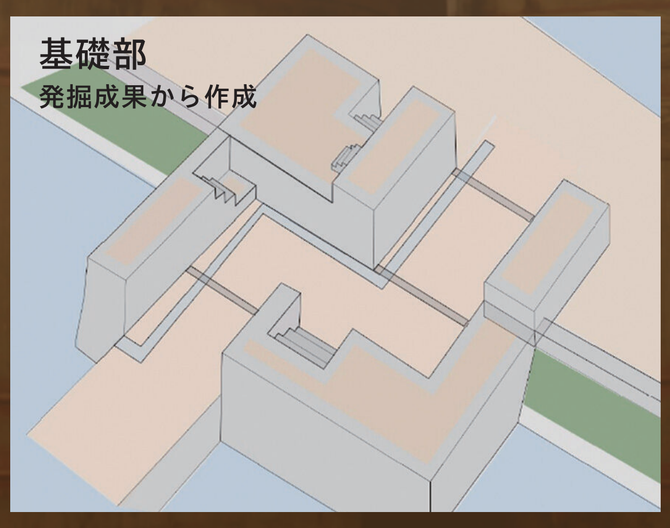
枡形の大きさは南北約21m、東西約15mです。この規模は、枡形の規模としてそれほど大きい方ではありません。なぜ搦手口最後の守りとも言うべき「坂谷門」を難攻不落の巨大な門にしなかったのでしょう。

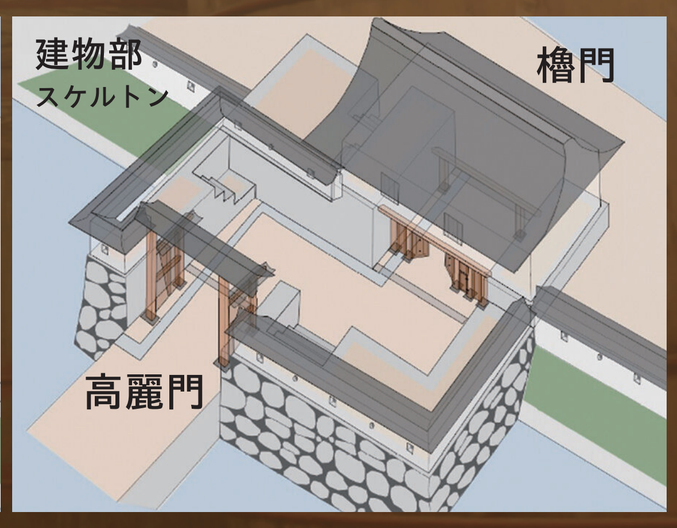
実は、そもそも幅が狭い坂谷曲輪では築ける門の大きさには限界がありました。その代わり、建物の背を高く、そして格式高い建物を建てることで、「城の防衛」よりも、「政治経済の中心」や「権威の象徴」、要するに「いかに立派に見えるか」へ役割が変わっていったものと考えられます。令和８年、坂谷門の発掘調査が大詰めを迎えます。新たな発見をご期待ください。

※1 日常的に使われる、背の低い扉。大きな門扉は普段は閉門していて、有事などの際に開かれた。



令和６年発掘調査空撮（写真上が天守側） 岡崎市教育委員会蔵







調査成果と明治時代初期の写真から復元した坂谷門の姿

※所蔵元の記載がない図は岡崎市教育委員会蔵